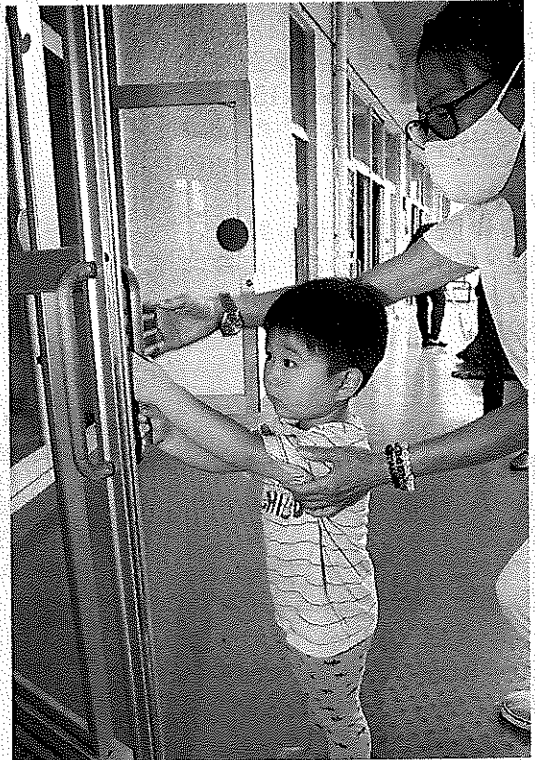


銅繊維シートを巻いたドアの取っ手に触れる
園児ら（立正保育園で）



園内のドアノブに銅シート

コロナ対策 // 群大発の製品が活用

立正保育園

立正保育園（桐生市浜松町二丁目、内田賀子園長）は、新型コロナウイルス感染症対策として、群馬大発のベンチャー企業「グッドアイ」が商品化した銅繊維シートを園内のドアノブなど十数カ所に施工した。

0歳児から5歳児まで計90人が通う同園では、園児たちを感染から守るようと、保護者と協力してさまざまな取り組みをしている。その一環で導入した銅シートは、群馬大学院理工学府の板橋英之教授が会長を務める同社が開発したもので、銅をコーティングした繊維に光触媒（二酸化チタン）を塗り、表面に付いたウイルスを不活化する効果がある。

同園では、市の保育環境改善事業費補助金を活用して長さ1メートル幅1・2メートルの同シートを購入。通常価格は15万円相当するが、子どもたちのコロナ対策に与えられた特別価格で提供された。これを切り分け、積水化学製の両面テープを施して、廊下や遊戯室などの入り口の取っ手やドアノブを覆

うように巻き付けた。施工は保護者の乙幡修社長が営む建設業のO.T.N（同市錦町）が担当した。

内田園長は「コロナ対策を徹底している保育士の負担軽減になり、保護者の安心感にもつながれば」と導入の意義を話す。

「メイド・イン・桐生の製品で子どもたちを守るのは幸せ」と板橋教授。コロナ対策の設備や物品購入を支援する市の「新しい生活様式導入支援補助金」を活用しての施工を呼びかけている。

問い合わせは、販売元の朝倉染布のメール（info@asakura-senpu.co.jp）へ。